

日本の農海産物を安心して食べたい!

青森県は 日本原燃(株) と六ヶ所村 再処理工場の協定を結ぶ。

試運転開始 2006.3.31

2007年11月 本運転 予定

世界的大規模

六ヶ所再処理工場

¥33億ペクレル

運転 40年間

政府公認

毎年 原発大事故の18倍 プルトニウムを放出

毎年18回 原発大事故が 起こると同じ

大量の放射能が 海へ空へ

原発1基が 1年で出す放射能を 1日ですす

クリプトンの年間放出量は チェルノブイリ事故の10倍

クリプトンは 2日で東京へ

毎秒20mで空へ クリプトンは 酸性雨で森林破壊。ヒフがん

地上に雨雪でふる

プルトニウムは 重いので近くに落ちやすい

海に流す放射能は 年間47000人分の 経口致死量に相当

日本原燃 認める 市町村長 説明会で

このすさまじい放出量は

原燃自らが国へ報告したもの

原燃であれば、申請の段階で 操業が認められないレベルです。

大量に放出される トリチウムとクリプトンの 除去装置は 経済性が優先され外されました

政府公認

再処理に莫大な税金を使い 自然エネルギー予算が削られてきた

イギリスの再処理工場周辺は 子供達に白血病が10倍広がり 周辺の海産物は、放射能に高度に汚染されている。 新規則で食用禁止の可能性。漁業は深刻な打撃になる。

参考

ガッテン「再処理」市民ハンドブック <http://www.greenaction-japan.org>

地球の子ども新聞 03 3703 9468

内部被曝の脅威 ちくま新書

放射能がクラゲとやってくる 七つ森書館 水口憲哉

青森の全国生産量

りんご	1位	80%
りんご	1位	55%
長辛	1位	40%
ごぼう	1位	25%
しじみ	2位	27%

岩手の全国生産量

わかめ	1位	40%
わかび	1位	20%
こんぶ	2位	25%
雑穀 (雑穀)	1位	52%
ホップ	1位	40%
アムール	3位	15%

宮城の全国生産量

銀だけ	1位	100%
かき	2位	27%
わかめ	2位	25%

岩手日報

1日23万部 2005.6.8

昨年の本県における海面漁業・養殖業の生産量がこのほど公表された。東北農政局がまとめた資料によると、総生産量が五年ぶりに増加したという。生産者、消費者ともども台所が潤ったわけだから、三陸の海の幸を享受している県民の一人として素直に喜びたい。

しかし、この先を考えると手放しに喜んでいくわけにもいかないようだ。いまウランによる試験を行っている青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の廃液によって、三陸の漁場が下北半島沖から宮城県沖まで大量の放射能に汚染されてしまう可能性があるからである。

日報論壇

三陸の海の放射能汚染

原田 浩

この問題について先ごろ、水口憲哉・東京海洋大学名誉教授の講演を拝聴する機会を得た。水口名誉教授は「六ヶ所村の再処理工場は今世紀最大の海に垂れ流し続けるとし、その影響は推し量ることもできない。三陸の沿岸漁業、養殖漁業は壊滅的な打撃を受けるのではないだろうか。海外では英国、フランスに同様の工場があり、そこからの廃液により近海ばかりか北海まで汚染が広がる、海で隣接する国々から操業停止を迫られている。近年、三陸沿岸では従来からの産業に加え、海洋深層水を利用した事業やエイシカゲ貝養殖、アマモを利用した養殖事業など、新しい取り組みが始まり、学校給食にも取り入れられ始めた地産地消と結びつき、本物を求める消費者の要求にも応えられる、堅実な食品産業が根を張り始めたように見える。」

「一日で排出する」とその危険性を指摘し、そこにある深刻な危機として警鐘をならした。

もし、この再処理工場が稼働を始め、際限なく高い濃度の放射性廃液を海に垂れ流し続けるとし、その影響は推し量ることさえ困難だ。三陸の沿岸漁業、養殖漁業は壊滅的な打撃を受けるのではないだろうか。海外では英国、フランスに同様の工場があり、そこからの廃液により近海ばかりか北海まで汚染が広がる、海で隣接する国々から操業停止を迫られている。

海に捨てられる放射能は 北海道から千葉まで流れ

濃度規制なし

日本の周辺海域全体が汚染される

2002年8月26日、再処理工場から海へ出る放射能の流れを調べるため、一万枚のハガキを放流。その漂着地点。(2002年12月9日現在)



岩手では たくさん 報道していい

生協 スーパー 食品店 海産物店 せしめよう!

発行 安心して食べたい会 <http://amanakuni.net/rokkasho/> 055 262 2620

左記サイトより当チラシをダウンロード可能